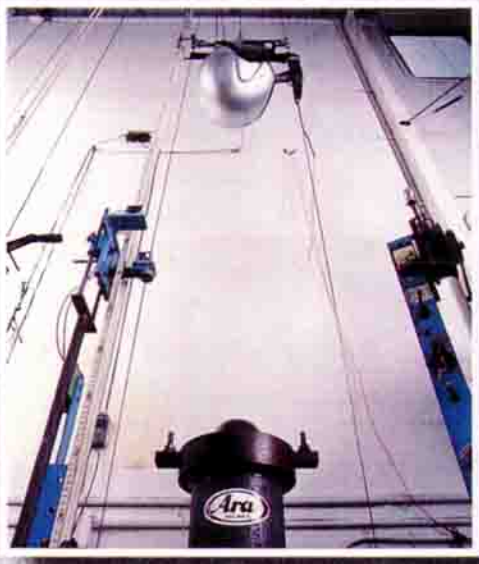
RACING SPECIALITY
JUNE 1999 VOL.134
Arai News
Arai HELMET

チャレンジし続ける安全性能

**アライは、RX-7RR3からOMNI-Rまで、NRシリーズを除くフルフェイスモデルすべて。
そして、SZシリーズ、UP-TOWNなどシールド付オープンフェイスでは、国内で発売されているものの中で、
唯一スネル規格を取得した製品を発売しています。
しかもアライでは、ヘルメットの重要な役目である衝撃吸収性能についても、
最も厳しいとされるスネル規格よりも更に厳しい独自のアライ規格を設け、それにパスしたモデルのみを、
スネル規格品としてお届けしています。**

「スネルは、レース活動を前提とした規格で、高価になるし重たくなるから、一般公道で使用するならばJIS-C種で充分、スネルは無用」という声もあります。確かに、レースは高い速度域で危険と隣り合せの激しいスポーツですが、それだけに、安全のためのルールは徹底され、コース上での危険回避区域(グリーン)やスポンジバリアなど安全対策にも配慮されています。それに比べて、一般公道での安全対策はどうでしょう。予測のつかない対向車の動きや飛び出しなどは日常の出来事。しかも、ガードレールや段差など、万一の際に、衝撃を一点に集中させてしまう恐れのある障害物だらけです。レースより安全とはとても云えません。

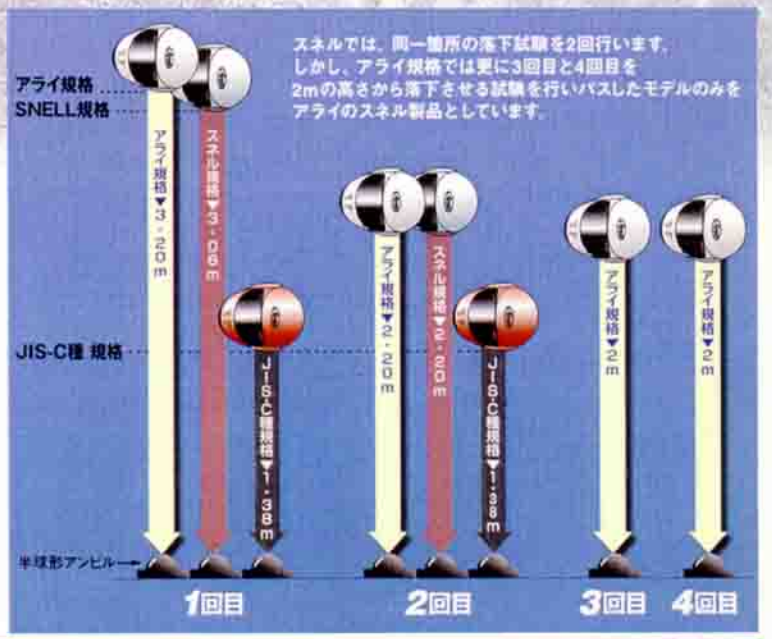


また、アライがお届けするスネル規格品の製品重量は、長年の開発活動による数種の独自素材と先進素材を、熟練技術者により、一つ一つ丁寧に積み重ね成形される複合積層帽体により、一般的に発売されているJIS-C種規格品並みか、それ以下の製品重量に抑えています。
むろん、目に見えない部分だけでもそれだけの手間をかけ作られた製品ですから、製品の価格は決して安いものではありません。しかし、その安全性能、快適性への機能、かぶり心地を較べてください。決して高価な価格設定ではないはずです。

**ヘルメットの安全性能は、限られた範囲の有限なものです。
だからこそ、少しでもその可能性を広げるべくチャレンジし続ける。そこに、アライの物造りの基本があります。**

衝撃吸収性試験とは、

ヘルメットをかぶせて落下させた人頭模型が受ける衝撃を測定するもので、スネル、JIS-C種とも300Gを超える加速度が加わってはならない、とされてます。その中で最も厳しいとされるのは一般公道での路側帯の段差やガードレールの支柱などを想定した半球形アンビルによるテストです。これは非常に厳しいテストなので、JIS-C種での落下高さは1.38mという人間の背丈より低いレベルに押さえられています。しかし、スネル規格ではその半球形アンビルに対してもJIS-C種の2倍以上の3.06mからの落下高さによる大きな衝撃でテストします。そして、アライでは、そのスネル規格よりも数パーセント厳しいアライ規格を独自に設定しています。それは半球形アンビルへ同一箇所を、一回目3.20m、二回目2.20mでテストした後、スネルにもない三回目、四回目を2.00mで落下させるテストです。アライは、このアライ規格にパスするように作られた製品を、アライのスネル製品としてお届けしています。



Arai HELMET
SNELL PE-151046